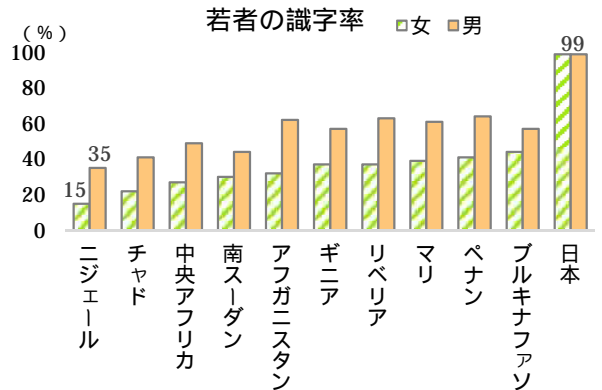




世界の女性たち

もしも生まれる場所が違っていたら...

世界の人口は約 74 億人。
今、世界で読み書きができない人は約 7 億 5 千万人といわれています。
15 歳以上の女性で字が**書けない読めない**人は約 5 億人。
内戦や貧困のために教育の機会を奪われました。特に女性は無償の労働力とみなされて教育や知識は必要ないとされてきました。

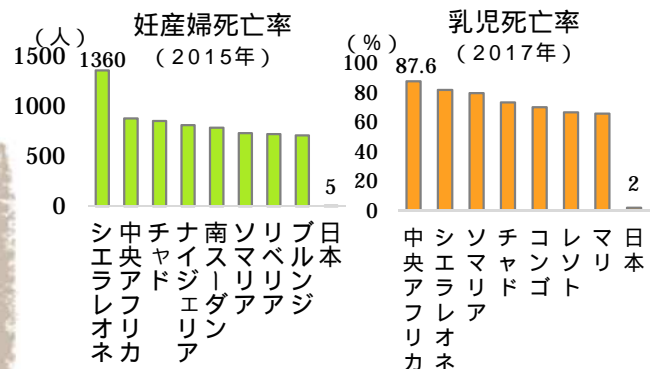


15 歳 ~ 24 歳の若者のうち文字を理解できる割合で、女性の識字率が男性より低い国

中東やアフリカ、南アジアなどの古い価値観が残る社会では、婚前・婚外交渉や、親の認めていない男性と付き合い合った女性は、「家族全員の**名誉を汚す**」ものとみなされ、女性の父親や兄弟により殺害される風習があります。犠牲者は年間 6 千人にも上るといわれています。

アフリカ中部、中東・アジアの一部地域などで伝統的な慣習として女性の性器の一部を切除する**FGM**が行われています。麻酔もせず、かみそりやガラスの破片などで施術を行うため、痛みや出血、感染症などで命の危険にさらされ、妊娠出産への悪影響など後遺症も深刻です。近年受ける女性は減少傾向にあります。

ダウリーとは結婚持参金の制度で、インドでは花嫁の実家が、嫁ぎ先にお金や家財道具を送ることが慣習となっています(法律では禁止)。持参金が少ないという理由で、嫁ぎ先で冷たい仕打ちを受け、姑や夫に火をつけられ殺されてしまうこともあります。インドで、女兒が生まれることを極端に嫌がる理由の一つにダウリーがあるのです。



乳児死亡率は、出生千人当たりの乳児(1歳未満)死亡数。妊産婦死亡率は、出生 10 万人当たりの妊産婦関連による死亡数。

日本は共に世界で一番死亡率が低い。

世界中で**人身売買**の被害にあう子どもの 8 割は女の子。女の子や女性の少なくとも 4 人に 1 人が身体的性的暴行を受けています。そして約 2 億 5 千万人の女の子が 15 歳未満で結婚。なかには 10 歳前後の結婚も…。早朝から家事労働の重荷を背負わされ、学校には通えません。早すぎる妊娠・出産による健康被害は深刻！
「女の子だから」。

たったそれだけのことで遭遇する苦難と、奪われる自由。途上国では女の子には男の子と同じだけのチャンスが与えられず、伝統の名のもとに負担を強いてきました。世界で女の子たちが直面している問題はあなたの問題でもあります。

参考図書：「わたしは 13 歳、学校に行けず花嫁になる。」「貧しい国で女の子として生きるということ」「わたしは 10 歳、本を知らず育ったの。」「地図とデータでみる女性の世界ハンドブック」 世界子供白書 2017、WHO 統計表



THE LAST GIRL

ナディア・ムラド、
ジェナ・クラジェスキ著
東洋館出版社 2018

イラク北西部でおきた「イスラム国」(IS)によるヤズディ教徒大虐殺。著者は家族を失い、性奴隷とされ、地獄の苦しみを受けるが、決死の覚悟で脱出する。以後 IS による虐殺や性暴力の実態を告発。昨年のノーベル平和賞受賞。



ここからセクハラ!

牟田和恵著
集英社 2018

セクハラの原因にあるものは「勘違い」と「無自覚に行われる女性蔑視」。それは形を変え人を変え、どこにでも現れるもの。「触ってないのになんでセクハラ?」というのは古典的な昭和のセクハラモデル。セクハラとは無関係だと自負する男性にも読んで欲しい。

新着図書紹介



「ふつうのおんなの子」のちから

中村桂子著
集英社クリエイティブ 2018

著者は生き物と本が大好きな生命科学者。最近の社会は、普通の人が普通に生きることができにくい方向に動いている気がしてならないという。少女時代の読書体験から普通の女の子の価値を教えてください。無力な自分を恥じないで。



女性のための「起業の教科書」

豊増さくら編著
日本実業出版社 2018

「好きなこと」「得意なこと」を仕事にしたい!でも何から始めればいいのかわからない。そんなあなたに、準備・開業・経営・継続と押さえておきたいポイントを専門家が解説。起業することは、意思決定の連続で大変な反面、「自分で自由にできる」楽しさがある。



新米母は各駅停車でだんだん本物の母になっていく

大平一枝著
大和書房 2018

本書は長女3歳、長男7歳からの17年分の育児エッセイをまとめたもの。新米母時代はよれよれだった。家事は最大の敵だった。失敗続きのダメ母でも、子どもは勝手に大きくなっていく。そして、ある日不意に小さな自由が...

テーマで読む1冊

わたし8歳、
職業、家事使用人。
日下部尚徳著

私たちが普通の暮らしをおくるために必要なもの、それが家事。この本は、バングラデシュで、家事をすることで生計を立てている「家事使用人」の子どもたち(その多くは10歳にも満たない!)のきびしい生活を紹介するとともに、児童労働の問題解決のために私たちに何ができるのかを問いかけている。朝から夜遅くまで働く家事使用人の約80%は女の子である。(合同出版 2018)





時代を拓いた女たち

津田 梅子

1864年(元治元年)～1929年(昭和4年)

『この塾は女子に専門教育を与える
最初の学校であります。』

1864年(元治元年)津田梅子は、旧佐倉藩士の仙と初子の次女として江戸牛込に生まれる。仙はペリ-黒船が来航した時、藩命で海岸防備に当たり、英語習得で身を立てようと決心。精進し幕府の外国奉行通弁として採用された。29歳の時通訳として福沢諭吉らとアメリカに同行し、先進的な技術を誇っていたアメリカに直接接触したことは、彼の生涯に大きく影響し、梅子の一生を方向づけることにもなった。

1871年(明治4年)黒田清隆が提出した「開拓使建議書」により、岩倉具視を特命全權大使とする使節団に、5名の女子留学生が同行することになった。黒田は建議書の中で「開拓」には人材が必要で、その人材を育てるには、母である女性が豊かな知識を習得しなければならないと力説した。旅費、学費、生活費すべて明治政府が負担し、さらに年間800ドルという当時としては破格な奨学金を支給するという条件で募集したが、応募する者が現れなかった。そんな中、仙はわずか6歳の梅子を海外に送ることを願い出、上田悌子(14歳)吉益亮子(14歳)山川捨松(11歳)永井繁子(8歳)ら5名の少女が出国。総勢107名のうち5名の少女を除いてすべて男性だった。少女たちに付き添ったのはアメリカに帰国するアメリカ公使夫人で、夫人は日本語をまったく解せず、「イエス」「ノー」「サンキュー」だけの英語の知識で、2か月に渡る航海に乗り出した。

梅子はワシントンのランメン夫妻の家庭に預けられた。子どものいない夫妻は、惜しみない愛情を注ぎ、家庭にも学校にも馴染んでいった。快活で積極的な梅子は自分の意志でキリスト教に入信し、日本語も忘れていった。

渡米から11年(明治15年)様々な教養を身に付けた梅子は捨松と共に帰国の途上、女性の学校を創る夢を語り合った。帰国後はカルチャーショックの連続で、男性が絶対権を持つ家父長制や女性が自分名義の財産を持たない不平等などの男尊女卑に直面する。男性の留学生には相応の職を与えられたが、彼女等には相応の職がなかった。明治17年、使節団で同行した伊藤博文の紹介で下田歌子の桃夭女塾(現実践女子大学)で、日本語と書道を習いながら、生徒に英語を教える職を得る。翌年華族女学校(現学習院女子中・高等学校)の英語教師となるが、良妻賢母の育成に一貫していた。教育によって女性の地位を向上させることが日本の発展につながると信じる梅子は、自分で学校を創りたいと改めて思った。縁談話がもち上がる中、明治22年、高度な大学教育を受けるため再度アメリカへ留学。生物学研究において才能を開花させ、大学に残るよう勧められるが、日本女性の自立への道を拓くため、募金で「日本婦人米國奨学金」を創り、帰国。この基金によって日本から4、5年に1名女子留学生を送ることができるようになった。

1900年(明治33年)36歳で、捨松(大山巖夫人)ら友人の協力とアメリカからの寄付により、念願の女子英学塾を開設。「男性と協力して対等に力を発揮できる、自立した女性の育成」を目指した。晩年は糖尿病と闘いながら、関東大震災で焼失した校舎再建に尽力し、昭和4年64歳で永眠。女性の高等教育に生涯を捧げた人生であった。女子英学塾は梅子の功績をたたえ、津田英学塾(現津田塾大学)と改称した。

参考資料：「津田梅子」、「津田梅子の社会史」、「女の旅」

明治民法における女性の地位

- ・子は父の家に入る。
- ・戸主及び家族は其家の氏を称す。
- ・家族が婚姻又は養子縁組を為すには、戸主の同意を得ることを要す。
- ・妻は婚姻に因りて夫の家に入る。
- ・夫は妻の財産を管理す。
- ・夫婦の一方は下記の場合に限り、離婚の訴を提起することを得。
 - 妻が姦通を為したるとき。
 - 夫が姦淫罪に因りて刑に処せられたる時。(姦淫罪は姦通相手が人妻である場合に限られる)
- ・被相続人の家族たる直系卑属は下記の規定に従い家督相続人と為る。
 - 親等の同じき者の間に在りては男を先にす。
 - 親等の同じき男又は女の間在りては嫡出子を先にす。



参考資料：明治民法 抜粋

にゅーすBOX

*3月8日は「国際女性デー」です。

産前産後期間 保険料納付免除

自営業者らが加入する国民年金の女性の保険料に関し、4月から産前産後期間の納付を免除する制度が始まる。免除を受けるには市町村に申請が必要。保険料を免除する期間は、出産予定の前月から4か月間(多胎妊娠の場合は3か月前から6か月間)。この間は保険料を納めたものとして扱い、将来の年金額が減ることはない。厚生年金は、平成26年度からすでに保険料が免除されている。

不妊治療 助成拡大

厚生労働省は、不妊治療で精子を採取する手術を夫が受けた場合、初回の助成を現在の15万円から30万円に倍増させる方針を固めた。不妊の原因の半数は夫側にあるとされる。また、東京都は、不妊治療の費用を一部助成する妻の対象年齢を、35歳未満から40歳未満に引き上げる方針。体外受精や顕微鏡受精といった高額な特定不妊治療への助成の対象者も拡充する予定。練馬区でも特定不妊治療への助成がある(詳細は練馬区ホームページ)。

66~70歳まで働きたい 約2割

内閣府は、「老後の生活設計と公的年金に関する世論調査」の結果を発表した。「何歳ごろまで収入を伴う仕事をしたいか」の問いに対し、61~65歳と答えた人が30.7%と最多で、66~70歳までと答えた人は、21.5%にとどまった。66歳以降も働きたいと答えた人は、経済的理由が5割を超える。政府は、70歳までの就業機会の拡大や、公的年金の受給開始年齢について70歳超を選択できる仕組みを検討している。

子どもの貧困対策 生活改善支援

厚生労働省は、経済的に苦しい家庭の子どもを対象に無料学習塾などを開いた自治体に補助金を出しているが、「生活の乱れがあると勉強に集中できず、効果が上がらない」といった指摘が相次いでいた。このため来年度から無料の学習支援事業を拡大し、規則正しい食事など暮らしぶりの改善にも踏み込んだ支援に対して補助をする方針を決めた。

練馬区 風しん予防助成拡大

練馬区では、2月1日から、風しん抗体検査・予防接種の全額費用助成制度の対象者を「昭和37年4月2日から昭和54年4月1日までに生まれた男性」にも拡大した。従来は妊娠を希望する女性、その同居者または妊婦の同居者に限っていたが、平成30年7月以降の流行は、30歳代から50歳代の男性が全体の80%以上を占めるため、拡大した。対象となる男性区民は約10万3千人。区に申請することで、抗体検査の費用は全額助成され、検査の結果が基準以下の場合のみ予防接種が全額助成対象となる。

ジェンダーギャップ 110位

ジェンダーギャップ(男女格差)の大きさを国別に順位付けした世界経済フォーラムの報告書(平成30年)が公表された。経済、政治、教育、健康の4分野14項目で男女平等の度合いを指数化し、順位を決める。日本は149か国中110位で前年(114位)より順位を上げたが、主要7か国では今年も最下位。教育分野以外はすべて順位が後退した。1位は10年連続でアイスランド。

女性就業率 5割超す

総務省の労働力調査で、平成30年の女性の就業率が全年齢ベースで51.3%となり、50年ぶりに5割を超えた。人手不足や育児と両立して働きやすい環境づくりが進んだことが背景にある。女性就業者は2千946万人で前年に比べ87万人増(男性45万人増)、増加の4割が宿泊・飲食と医療・福祉で占める。

梅毒患者 6千人超

国立感染症研究所は、性行為で感染する梅毒患者数が、平成30年は6千923人と発表。8年連続で増加し、48年ぶりに6千人を超えた。20代女性で急増し、3年間で約10倍(893人)となり全体の約2割、女性患者の5割を占めた。感染拡大の原因として、出会い系アプリの利用があるとの見方もある。

学校女性管理職 過去最高更新

平成30年度に公立小中高などの女性管理職(校長、副校長・教頭)が、1万2千170人と全体の17.5%を占め、5年連続過去最高を更新したことが文部科学省の調査で分かった。国は、2020年度までに女性管理職を20%以上にする目標を掲げている。

児童虐待通告 最多8万人超

全国の警察が、平成30年に虐待を受けた疑いがあるとして、児童相談所に通告した18歳未満の子どもは、14年連続増加の過去最多8万104人に上った。虐待への関心の高まりが反映された形だが、幼い命が犠牲になるケースは後を絶たない。

離婚の妻に携帯通知 サウジアラビア

サウジアラビアでは、夫が妻の同意なしに離婚できるが、裁判所が妻に離婚されたことを携帯電話のショートメッセージ(SMS)で通知する新たな制度が始まった。これまで離婚されたことを妻が知らない例が多く、通知を受けることにより、離婚後の財産を受け取る法的立場が確立され、女性の権利拡大につながると指摘されている。サウジではひと月に1万2千組が結婚する一方、5千組が離婚しているという。

